

事業所名 グループホーム えがおをみせて
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成20年 1月31日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 社会福祉法人生活指導員
資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー
B:現職 高等学校非常勤講師
資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

岡山市の南部、サウスビレッジの近くにホームはある。母体医療法人と同敷地内にあり、ホームからはサウスビレッジのどんがり帽子の屋根と風車が見える。辺りには田園が広がっており、静かでゆったりとした環境である。

医療機関に加えて、複数の老人介護施設が併設されており、入居者・家族は医療・福祉共に充足したホーム生活が期待できる。

代表者は、認知症におけるジェントルティーチングの構想を導入し、「どんな人の行動も必ず意味がある」と考え、認知症である入居者支援には親密な交わりこそが介護の基本として実践し、成果を上げている。

2001年に、先駆的に認知症対応型共同生活介護を始めており、色々なタイプの認知症に対して充分に対応できるホームである。

エアプロセッサ(循環型温湿度制御装置)を設置し、室内を快適な空間として保持している。また、駐車スペースを広く取り、家族や関係者が気楽に気持ちよくホームに来訪できるように配慮している。

本人・家族の希望によりターミナルケアを導入している。ホームを終の棲家として人生の終焉まで介護し、家族の一員としての看取りも体験しており、入居者は最後まで安心して暮らせる。

理念・方針の実現に向けてしっかりと取り組めるように、人材を十分に確保している。職員の安定は介護の資質向上の原点と捉えており、常勤職員の勤務比率が高い。入居者との信頼関係も厚く、入居者は落ち着いて安定した共同生活を送っている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

ホーム生活は安定しており、改善点として特段に指摘すべき課題は見当たらない。提案として、

町内会に参加して積極的に地域と密着し、運営推進会議に幅広く地元・地域の意見を集約して活性化を図り、地域への貢献がさらに具現化することを期待する。

○消防出張所が極近くにある利点を生かし、地域と一体になって防災システムを強化し、法人全体をも含め、入居者・利用者がより安心・安全の体制を確立されることを期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <p>入居者がその人らしく生きていけるように、職員は入居者に対しては常に尊敬の念を持ち、最後まで尊敬のある暮らしが営めるように、ホームでの暮らしに喜びと自信を取り戻すことを目指している。</p> <p>ジェントルティーチングケアを援助の基本に据え、本人と触れ合う機会を多くして、入居者の心を理解するように努めている。</p> <p>入居者・家族・職員の信頼関係を構築し、ホーム生活の質を向上させると共に、入居者の自立を支援するように努力している。管理者・職員は心を合わせ、現状に甘えずに常により良いものを目指し、家族が思っている以上のサービスを行うことを目指している。</p> <p>個々の入居者の個性を長期的視野で理解し、信頼を得るように努力している。一年に1回しか入浴しなかった人が、4年後には一日おきに入浴するようになった事例があり、そのことは職員に自信をもたらし、この事実と自信に基づき、入居者本人の社会性を回復することを目指している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>共用空間には、個人でくつろげるサブリビング的な空間を何箇所か設けている。馴染みのある生活道具類を置いてくつろぐ生活空間作りを行い、独りを自由に楽しめ、引きこもりを防止する取り組みをしている。</p> <p>職員は、落ち着いて手早くスムーズに介助を行い、入居者に苛立ち・混乱や興奮を与えないように配慮している。</p> <p>家族の面会時間の制限は無く、24時間いつでも訪問できる。また、職員は、入居者が自分のペースを保ちながら暮らせるように工夫している。</p> <p>入居者の気持ちが落ち着き、表情が穏やかで明るくなるように、職員は声掛けと触れ合いを大切にしたい対応を心がけている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人で行えることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にしたい整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>入居者一人ひとりの生活歴・能力を把握し、本人が誇りと意欲を持って取り組むことが出来る作業等を実行してもらおうようにしている。</p> <p>職員採用時には、プライバシーポリシーについてよく説明をし、入居者のプライバシーの重要性の認識と徹底を図っている。玄関に個人情報に関するホームのあり方について留意点を張り出している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <p>サービスの質の向上に向け、法人全体で年間目標を決め、それに沿って各種介護行動マニュアルを設定している。どの職員も同じような対応が出来るようになっており、一定したサービスレベルの確保を図っている。</p> <p>些細な事故やトラブルまで記録し、対応をしっかりと検討して再発防止に努めている。また、事故発生・ヒヤリハット集計表を作り、発生の時間帯をも記録し、事故頻発の危険時間帯について職員は相互に啓発している。</p> <p>危機管理委員会を法人内に設置し、入居者の総合的な安全を徹底して図っている。</p> <p>苦情など、様々な意見に真摯に耳を傾けて検討し、日々自己研鑽に努めている。</p>		